

WPCローレション

5期連続で増収増益

海外市場向け販売が90%

ラスチック再生複合材製品（ウッドデッキや木質ルーバー、サイディング）を製造依頼し、OEM製品として主に海外（25カ国）に販売している。単なる流通と違うのは社内には技術者3人を配置し、木粉とプラスチックの配合や製品の品質確認等を各工場に張り付き行っている点だ。

また、同製品売上高の90%が海外市場（主に欧州やロシア、中東等）で、パリのシャルル・ドゴール空港やロシアのメドベージェフ大統領の別荘にウッドデッキを収めた実績を持つ。日本国内では、デベロッパを中心に設計事務所等に営業しており、国内外で年間2500トンの製品を販売。来期は3500トンを目指している。



菊池 社長

国産の木材プラスチック再生複合材製品を販売しているWPCローレション（東京都、菊池武恭社長）は、この不況下で確実に業績を伸ばしている。設立6年にして、業績は5期連続で増収増益を計上。売上高推移を見ると、2年目6

000万円、3年目1億2000万円、4年目3億円、5年目6億1000万円、6年目の今期は10億円を目標にしている。人員は社長含め7人体制のベンチャー企業だ。

現在の木材プラスチック再生複合材製品販売の内訳は、ウッドデッキ70%、木質ルーバーやサイディング30%の割合となっており、ウッドデッキは価格競争が激しいことから、今後はサイディングに力を入れていく考えだ。特に国内のように防火基準が厳しくない欧州等の地域でサイディング販売を強化していく。

「今後の鍵は、どこまで製造コストを下げることができるかにかかっている」（菊池社長）という。